

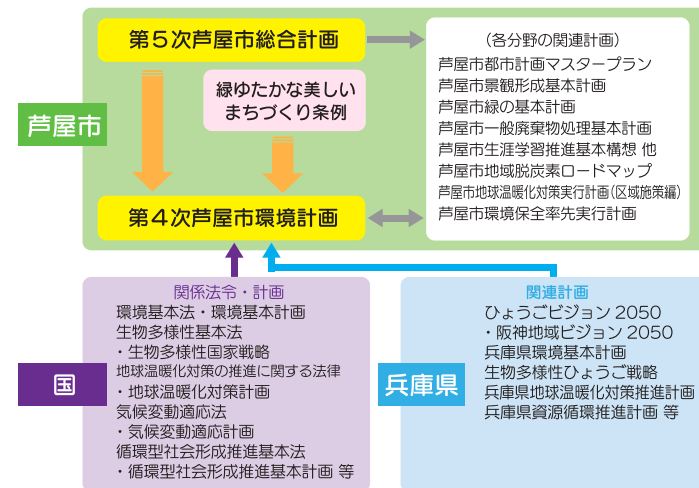
第4次芦屋市環境計画

~ The 4th Ashiya city Environmental Plan ~

あなたとこれからも続けること あなたとこれから始めること

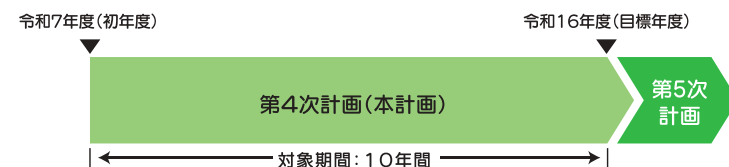
計画の位置付け

第4次芦屋市環境計画は、「緑ゆたかな美しいまちづくり条例」第7条の規定に基づき、芦屋市における環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本となる計画として位置付けられています。



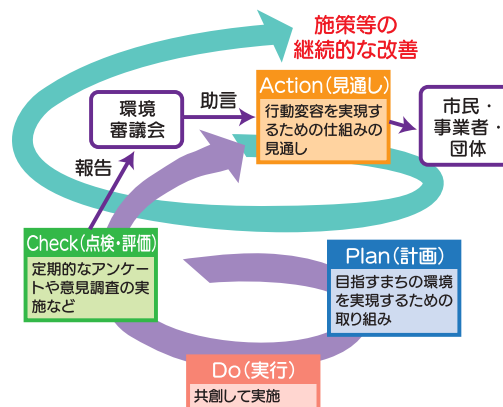
計画の期間

第4次芦屋市環境計画の対象期間は、第3次芦屋市環境計画の目標年度の翌年度である令和7(2025)年度を初年度とし、令和16(2034)年度までの10年間とします。



計画の進行管理

第4次芦屋市環境計画の進行は、PDCAサイクルによって管理します。



第4次芦屋市環境計画資料編

本冊子は第4次芦屋市環境計画の全体像を示したものであり、詳細は資料編に掲載しています。
資料編は右の2次元コードを参照してください。



まずは、できることからはじめてみませんか？

- 例えば
- ①「まち散歩を楽しもう!」→ 自然共生
 - ②「食べ残しゼロ運動を!」→ 脱炭素
 - ③「ごみ分別度を誇れるまちに!」→ 資源循環

その他の具体的な取組の例は、右の2次元コードを参照してください。



第4次芦屋市環境計画

これからも続けること
これからはじめること
「わたし・まち・自然」
の未来のために

第4次芦屋市環境計画は、これまでの環境施策で大切にしてきた、まちの美化や景観に対する取組を、「健康・快適」「景観・美化」を柱として、これからも続けていくことを前提に、以下の取組を進めていきます。

① 自然共生

山・川・海が市街地のすぐ近くにあり、多様な自然を身近に触れることができる、芦屋の環境の素晴らしさを、あらゆる主体（市民・事業者・団体・行政等）が理解し、親しみ、次の世代に引き継いでいくための取組

② 脱炭素

地球温暖化を防ぐための緩和策として、ゼロカーボンシティを実現するための取組

③ 資源循環

限りある資源を大切にし、今も未来も継続して使うことができるようにするための取組

上記の取組を市民・事業者・行政が共に学び、創り上げ、地域全体で進めていきます。

世界を変えよう、芦屋から



目指す「まちの環境」について

健康・快適／景観・美化

目標 美しいまちの景観が大切に
されていて、清潔で快適に暮らす
ことができるまち

目指すまちの環境

- 健康で快適な生活環境が守られ、みんなが住み
続けたいまちであり続ける。
- 山、川、海の自然環境の保全・形成とともに、
『緑豊かな美しい芦屋の景観』を大切にする
ことで、多くの市民の心を和ませている。
- 『緑の質を高めて幸せを育むまち』の実現に向
けて取り組んでいる。
- 山、川、海の美化活動に、継続して取り組んで
いる。

自然共生

目標 あらゆる主体（市民・事業者・団体・行政など）が、身近に
自然を感じ、親しみ、保全に関わる取組ができるまち

目指すまちの環境

- 市民が山、川、海辺を気軽に散策し、多様な自然を楽しむことができる。
- 環境保全への理解が深まり、多様な動植物の生息環境が守られている。
（例）奥池地区の湿地にはコケ類・ラン類・両生類等、芦屋川中流にはホタル、海
岸沿いには砂浜に生息する動植物、またそれらを捕食する生物の生息環境等。）
- ブルーシーフードなどの取組により、海の豊かさが守られている。

※関連ワード

- 生物多様性
- ネイチャーポジティブ
- 30by30



脱炭素

目標 ゼロカーボンシティを目指すまち

目指すまちの環境

- デコ活が普及し、一人ひとりが、それぞれに適した取組
を取り入れ、快適に生活することができている。
- 再エネ由来のエネルギーを利用することができている。
- プラスチック製品の利用の抑制やリサイクルの促進、可
燃ごみに含まれるプラスチックごみの量が大幅に減って
いる。
- 次世代自動車導入と、充電などの施設整備が進んでいる。
- 省エネ設備、再エネ設備の積極的な導入が進んでいる。

※関連ワード

- デコ活
- カーボン
ニュートラル



学びと共創

環境とのすこやかな
つながりを学べるまち

資源循環

目標 みんなが気軽に資源を循環していけるまち

目指すまちの環境

- ごみの減量など資源の再利用、リサイクル、アップサイクルなどに地域
全体が協力して取り組むようになり、地域からのごみの排出量が減少し
ている。
- 雨水の利用や地下浸透のための設備が増えている。
- グリーン購入の意識が定着し、取り扱う店舗が増え
ている。
- 下水処理水の有効活用や、下水汚泥のエネルギー有
効利用等が進んでいる。

※関連ワード

- サーキュラー
エコノミー
- アップサイクル



※関連ワードに関する詳細な説明は、資料編に記載しています。

学びと共創について

目指すまちの環境を実現するためには、「市民・事業者や団体・行政が共に学び、共に創り上げていく」仕組みが必要不可欠です。



市民

自ら積極的に学び、ライフスタイルの中に、目指すまちの環境を実現するための行動を取り入れる

学びと共創

事業者・団体

行政(市)

行政と連携し、市民に向けた学びの場を提供する。環境に配慮した商品の選択、ライフスタイルの変化を気軽に実施できるような商品・サービスを積極的に提供する

みんなの行動変化

市民、事業者・団体との連携、情報発信、環境に配慮した商品の選択、ライフスタイルや事業活動の変化を後押しするための施策を実施する

目指す「まちの環境」



自然共生

学びと共創の例：芦屋に生息する動植物の名前や特徴などを知り、生息環境に配慮した行動をする

芦屋市は、山・川・海の自然が身近にあることから、都市でありながら、多様な動植物が生息するまちです。自然にふれる機会を増やすことで、知識を増やし、自然と共生する行動が大切です。

市民：勉強会や観察会、保全活動等のイベントに参加

事業者・団体：勉強会や観察会の開催、保全活動の実施

行政(市)：市民・事業者・団体や国・県との連携、情報の発信



脱炭素

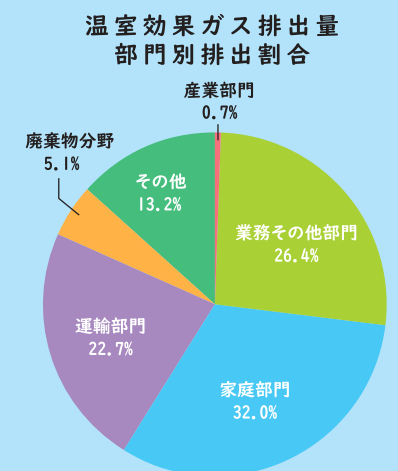
学びと共創の例：私たちが使うエネルギーに関心を持ち、温室効果ガスの削減につながる行動をする

芦屋市は住宅都市であることから、家庭部門と業務その他部門からの排出が、大きな割合を占めています。そのため、省エネ家電の購入や、再エネ設備の設置だけでなく、一人ひとりのちょっとした工夫や取組が、削減につながります。

市民：勉強会への参加と実践、省エネ家電、再エネ設備、次世代自動車の購入等

事業者・団体：勉強会の開催、省エネ設備、再エネ設備、次世代自動車の導入、充電設備などの整備等

行政(市)：情報の発信、補助の実施、省エネ設備、再エネ設備の導入、次世代自動車のインフラ設備促進に向けた取組の実施



資源循環

学びと共創の例：ものの大切さを改めて認識し、持続可能なかたちで資源の有効利用につながる行動をする

芦屋市は、令和5(2023)年10月から指定ごみ袋の導入や、令和6(2024)年4月からペットボトルの水平リサイクルを進めています。市民・事業者の3R(発生抑制Reduce、再使用Reuse、再生利用Recycle)やアップサイクルへの取組がごみの削減につながります。

市民：勉強会への参加、リユース・リサイクル・アップサイクル製品の購入や資源の提供

事業者・団体：勉強会の開催、再使用・再資源化の促進、アップサイクル製品の製造や販売

行政(市)：事業者・団体の支援・連携、情報の発信

